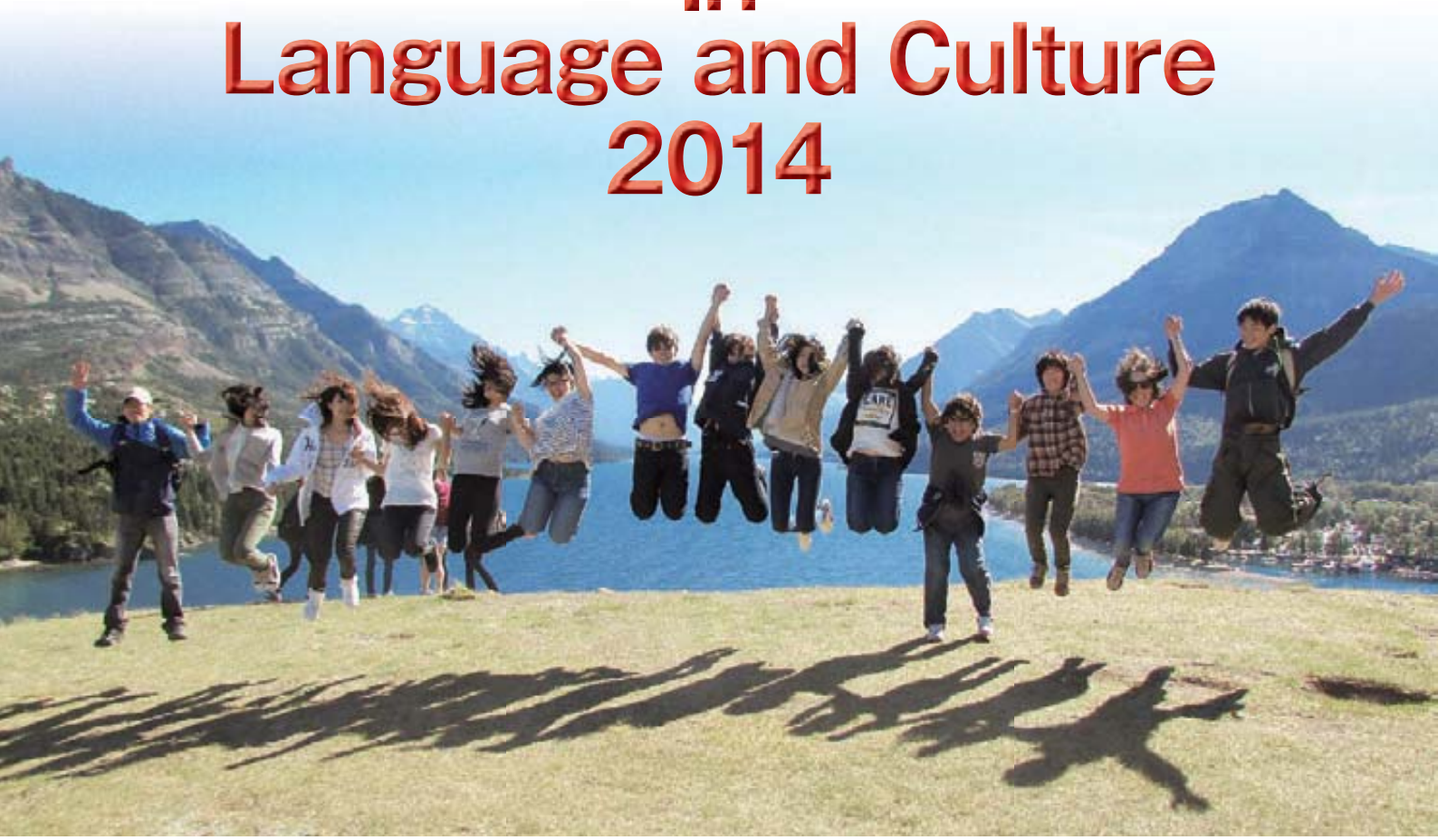
International Programs in Language and Culture 2014



北海学園大学人文学部

Brock University

University of Lethbridge

挨拶

Brock University's partnership with Hokkai-Gakuen University

Kim Meade
Vice-Provost
and Associate Vice-President,
Student Services

As we enjoy our 50th anniversary celebrations here at Brock University this year, it is a time for us to reflect on important partnerships we have developed over the years. Our relationship with Hokkai-Gakuen University is one partnership that we certainly value at Brock University. Just as Brock has grown over the years, so, too, has our partnership with Hokkai-Gakuen University. For more than ten years we have had the pleasure of welcoming students from the Faculty of Humanities to our university. Since 2014 the program has expanded so we also have the pleasure of working with students from the Faculty of Business. These new groups have allowed us to diversify the types of academic activities we can offer, including trips to local wineries, the Niagara Hilton Hotel and the Royal Bank of Canada. At the same time, we see your students actively participating in many of our annual university and local activities such as our Grape Stomp and the Ice Dogs hockey games.

The enthusiasm and energy the Hokkai-Gakuen students bring to our campus every year is wonderful to see. During their short stay, they form new friendships with students from around the world and develop lasting relationships with their homestay families. We are all enriched by their presence in our classes and on our campus.

We hope that as Brock moves into the next 50 years of its founding, our long-standing relationship with Hokkai-Gakuen University will continue to grow. I also hope that I have the opportunity to visit your campus once again in the near future.

Strengthening the HGU-ULeth Partnership

Paul Pan
Acting Executive Director
University of Lethbridge
International Office

On behalf of the senior administration and myself, I would like to invite you to join our University of Lethbridge International family. The University of Lethbridge is consistently ranked as one of the top small universities in Canada and has a long tradition of providing quality education and helping students achieve their personal and educational goals.

We welcome you into our international family with representation from over 65 countries. You will work with others to gain first-hand information about and insight into Canadian university life. As a member of our International family, you will find plenty of opportunities to connect with other students, both Canadian and international, and have access to all student services.

Make the University of Lethbridge your destination university. See you soon!

人文学部カリキュラムにおける語学文化研修

英米文化特別演習（旧、国際文化演習）

英米文化特別演習は、９月初旬から約３週間、本学の協定校であるカナダ、レスブリッジ大学（アルバータ州）またはブロック大学（オンタリオ州）のいずれかで現地の大学の授業を履修するために必要な英語運用能力を養成するプログラム（IELP または EAP）の履修と現地での様々なアクティビティーを通じた文化体験による研修です。2014 年度からは学生の希望と英語力により、２つの大学のいずれかを選択して参加できるようになりました。参加学生にとってこの研修は、現地での様々な経験や出会いを通じてその後の新たな目標を見つけ、より長期の留学や進学を目指すなど、次のステップに向かうための重要な足掛かりとなっているようです。是非、多くの学生に参加してもらいたい研修です。

結団式

ブロック大学研修

レスブリッジ大学研修での小旅行

国際文化特別演習

国際文化特別演習は、英米文化特別演習と同じ時期に協定校２校のいずれかにおいて、現地での１学期（term）を他の国からの留学生と一緒になって Intensive English Language Program（IELP, ブロック大学）、English for Academic Purpose Program（EAP, レスブリッジ大学）で現地大学レベルでの学術研究に必要な英語運用能力を養成するための授業を履修します。３週間と期間の短い英米文化特別演習より、さらに大きな成果が期待されます。この科目は２年次より履修可能で、英米文化特別演習の参加有無を問わず参加可能です。また、現地での学修は履修科目と成績に応じて 14 ～ 20 単位が本学卒業単位として認定されます。

Contents

1 … 挨拶

2 … 人文学部カリキュラムにおける語学文化研修

3 … ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介
ブロック大学海外研修事業の概要

4 … ブロック大学の ESL 授業
ブロック大学のアクティビティ

5 … 参加者エッセー［ブロック大学研修］

9 … Interview “Why Brock?”

10 … Photo Gallery［ブロック大学研修］

11 … レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介
レスブリッジ大学海外研修事業の概要と EAP 授業

12 … レスブリッジ大学のアクティビティ

13 … 参加者エッセー［レスブリッジ大学研修］

17 … Interview “Why Lethbridge?”

18 … Photo Gallery［レスブリッジ大学研修］

19 … 国際交流委員会から

20 … 海外研修事業の歴史

21 … Photo Gallery

ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介

St.Catharines市

カナダ、オンタリオ州南西部に位置するセント・キャサリンズ市（City of St. Catharines）は、ナイアガラ地域では最も大きな都市です。果樹園やぶどう園、ゴルフコース、史跡などに囲まれ、緑あふれる景観からガーデン・シティ（The Garden City）とも呼ばれています。手入れのゆきとどいた美しい公園と 200 を超える温室があり、カナダの温室産業の基地ともなっています。

トロントからは車で 1 時間、ナイアガラの滝には 20 分弱と近く、ナイアガラ観光に適した都市でもあります。また、トロントとアメリカのバッファローの中間という位置でもあり、アメリカからも多くの人が訪れます。ワイナリーは 45 以上と言われ、カナダ最大のワインの産地としても知られています。

セントキャサリンズ市

ブロック大学

ブロック大学とは

ブロック大学は、セント・キャサリンズ市にある 1964 年に設立された総合大学です。大学名は、1812 年の戦争（War of 1812）の軍功で名高いアイザック・ブロック（Isaac Brock）の名にちなんでいます。中規模ながら充実した学術プログラムが国際的にも評価され、応用健康科学部、経営学部、教育学部、人文学部、数学科学部、社会科学部及び大学院が設置されています。また、留学生向けには充実した英語集中講座があります。

※ブロック大学公式 HP http://www.brock.ca/

ブロック大学海外研修事業の概要

今日は、社会の多文化化にともない、日常語としての英語の普及および実践的な多文化適応力の養成が求められています。ブロック大学と本学とは 2000 年に交流協定を締結し、９月上旬からの３週間、IELP（Intensive English Language Program: 英語集中講座）に学生を派遣しています。2014 年度からは科目名を「英米文化特別演習」と改め、１年次からの参加が可能となりました。さらに 2015 年度からは２年次から参加できる「国際文化特別演習」として、９月上旬から 12 月中旬までの秋学期、約３ヶ月にわたり IELP を履修することを可能としました。両演習とも英語圏の大学での就学に必要な英語運用能力を習得することが主要な目的ですが、ホームステイや様々な文化活動を通じて、カナダの文化・社会についても理解を深められるのも特徴の一つです。研修を通じて得られるもう一つの経験は多文化主義の実体験です。研修期間中、学生たちはフランス語圏のカナダ人、中南米、アジア、中東各国からの留学生を中心とする多様な文化背景を持つ人々と授業を受けることになります。様々な国の学生と友好を深め、視野を広げる機会になり、積極的な授業参加や発言の場ともなっています。

ブロック大学の ESL 授業【プレイスメント・授業内容等】

ESL クラス　平日 8:00 ～ 16:00

学生は５つのクラス（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング・グラマー）を受講します。

ブロック大学のキャンパス

◉自身のレベルに応じて学習

プレイスメントテストの結果に応じて、レベル０（英語入門クラス）からレベル５（大学入学準備クラス）までの６つの段階に習熟度別にクラス分けされます。

◉海外あらゆる国からの学生と共に学習

アジア・中東・中米・南米などから来ている学生たちと共に学びます。

◉授業は、英語だけを使用

世界中から学生が集まるため、お互いにコミュニケーションを図る際は、英語を使用しなくてはなりません。授業中だけでなく、大学構内では他の言語を使用せず、英語だけを使うよう勧められています。

①ブロック大学でのオリエンテーション　②③④ブロック大学の教室で

ブロック大学のアクティビティ【トロント小旅行・遠足等】

英米文化特別演習では英語授業の履修による教室内での学習に加え、教室の外で行われる様々なアクティビティーを通じて自分の目的に応じたコミュニケーションをとりながら英語を学ぶ機会が設定されています。

アクティビティーは、世界的な観光地であるナイアガラの滝の見学・ボートツアー、レイクサイドでのバーベキュー、ワイナリー訪問、セント・キャサリンズ市庁の訪問、ナイアガラ・オン・ザ・レーク訪問など多岐に渡ります。週末には、カナダ最大都市であるトロントへのデイ・トリップが行われ、運良くトロント国際映画祭の開催時期と重なれば、世界中から映画関係者やファンが訪れる国際都市トロントの非日常的な一面も垣間見られるかもしれません。

この他にも大学の行事であるぶどう踏み祭り（Grape Stomp）やキャンパス内のコンサート、ボランティア活動などにも自主的に参加することができます。これらアクティビティーに積極的に参加すれば現地の学生、住民との出会いを通じてさらに現地の文化を学ぶこと期待できます。

①ナイアガラの滝の見学　②ワイナリー訪問　③セントキャサリンズ市庁訪問　④セントキャサリンズ博物館訪問　⑤大都市トロント　⑥ぶどう踏み祭り

ESSAY
Brock
参加者エッセー

カナダで学んだこと

島谷 恵理
SHIMATANI Eri
1部英米文化学科1年

研修中に感じたことは、言語や文化の違いがあるので、相手の話をどうにか理解しようとする姿勢が大切だということです。私の研修先のブロック大学では、日本の学生だけではない様々なアジアの国から留学生が来るので、相手の英語の訛りに耳を傾けて、相手は何を言いたいのかを聞くことで意思疎通を図っていました。言葉は聞いていくうちに慣れるものなので、相手の言葉がわからないうちほど沢山質問をし、耳を傾けることが慣れるのに大切だと思います。次に、積極的な姿勢も重要です。英語を聞けるうちに沢山聞いて学びたいと思ったので、ホームステイのリビングに居座り、ホストファミリーと話す機会を沢山作ったり、積極的にクラスメイトに話しかけて、雑談したことが成功した点だと思います。さらには、大学の初日の帰宅時で迷子になった時に、自力でどうにかして乗り越えたいと思ったので、大学や終点のお店の人に道を尋ねて帰宅したので、自分に自信がついたと思います。何かを断る時に、曖昧な返事やはっきりした返事は望ましくないと感じたので、適切な言い方を学んだことも良かったと思います。

異なる文化の人々と話して、コミュニケーションを取ることが好きなので外資系の会社に務めたいと考えています。日本の企業でも、様々な人がいるので、相手の意見を聞く姿勢や、積極的にコミュニケーションをとる時に今回学んだことが生かせると思います。

クラスメートと先生と一緒に

自分でできることはどうにか自力で頑張る姿勢を続けていくと、助けてくれる人がいるのでそういった友人達、先生方と協力しながらコンタクトをとっていくことが大切です。今年のトロントは異常気象のようだったので、暑い日と寒い日の差がひどく激しかったです。体調管理をしっかりすることを来年度以降の参加者の方々に伝えたいです。

ESSAY
Brock
参加者エッセー

大きな挑戦

星 瑞希
HOSHI Mizuki
1部英米文化学科1年

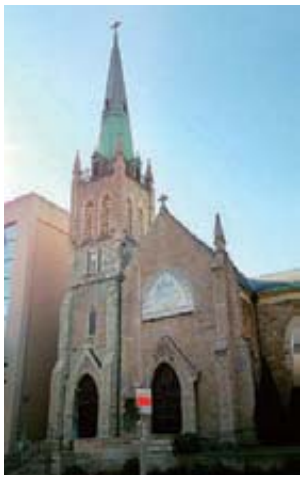
私にとって今回のカナダへの留学は三週間という短い期間ではありましたが、今までの人生で最大の挑戦だったと思います。すべてが英語という環境に行き、そこで生活することは難しい部分もありましたが、同時にとても刺激的で充実していました。

大学での授業はもちろん、クラスメートやホストファミリーとの会話、店員とやり取りするときも英語です。最初は通じるのかどうか不安で、うまく言葉になりませんでした。そんな様子を見てホストマザーが口にしなければ伝わらない、とアドバイスしてくれました。日本では意思をはっきりと言葉にしない部分がありますが、カナダはそうではありません。思っていることをしっかりと言わなければならない、そのことに気付いてから私は間違いを恐れずに英語で話すことを心がけるようになりました。そうして会話するうちに自然と手でジェスチャーをするようになり、より相手に伝わるよう努力することの大切さを知りました。クラスには日本人のほかに韓国人、中国人、ブラジル人がいて、第一言語はばらばらです。だからこそ英語を使い、お互いの完璧ではない英語をお互いに理解しようとすること。これが交流するうえで一番大事だと学びました。

文化の違いにしてもそうです。特に食文化は慣れようとして過ごしていました。調理法や味付けの違いを教えてもらうたび、私は驚きと感心が混ざったような気持ちになりました。ホストマザーは私の嫌いな食材を使わないように気遣ってくれたので、私は日本の家庭にはないような料理を楽しむことができました。

異なる言葉や文化に実際に触れて得ることはこれだけではありません。私は多くを学びましたが、もっと英語ができたならもっと多くのことを得られたのだろうという気持ちを、これからの英語学習で忘れずにいようと思います。

ナイアガラの滝


セントキャサリンズの街で

ESSAY
Brock
参加者エッセー

3週間での経験

畑村 七海
HATAMURA Nanami
1部英米文化学科2年

私は今回の3週間のカナダ留学でたくさんの刺激を受け、たくさんの貴重な経験をしてきました。知らない土地に違う文化と言葉、考え方や価値観の違いなど、勉強になることはたくさんありました。

カナダでは、ホームステイ先からブロック大学に通い、その中にある、留学生専用校舎に通い、英語を学びました。そこには、様々な国からの留学生が通っていて、いろんな国籍の人たちと友達になることができました。大半は中国人が占めていて、日本人、韓国人、サウジアラビア人、コロンビア人、フランス人など、英語だけでなく、様々な言葉と文化に触れることができました。授業では、みんな積極的に参加し自ら発言をしていて、消極的な私は最初苦労しました。クラスで仲良くなった中国人の女の子とは毎日一緒にお昼を食べて、片言の英語で会話をしていました。伝わらないときは、漢字を書いて会話をしました。英語が相手に一発で伝わる時の嬉しさも身に染みて実感することができました。

カナダの人たちは、私が道に迷ったとき、知らない人に声をかけると必ず笑顔で「*Hi!*」と返してくれます。お店の店員さんたちもみんなフレンドリーでお会計の最初は「*How are you?*」から始まって、別れるときは「*Have a nice day*」と言葉をかけてくれます。道ですれ違った全く知らない人でも、目が合えば挨拶をかわします。カナダの人たちの暖かさを感じることができました。

カナダではナイアガラの滝を筆頭にして、ホッケーの試合やマジックショーなどたくさのイベントに参加させて頂きました。家でも学校でもプライベートでも英語漬けで、英語がさらっとでてくるまで成長したように思います。今回、カナダ短期留学に参加することができてよかったです。これまでの経験を、これからの大学生活に生かしていきたいです。

フェアウェルランチにて

ESSAY
Brock
参加者エッセー

カナダへ行って得たもの

池田 莉央
IKEDA Rio
１部英米文化学科２年

私は学校の英米文化特別演習として、夏休みにカナダに行ってきました。たった三週間と短い期間ではありましたが、カナダに行って多くのものを得て帰ってきたと思っています。カナダでは日本とは違い、英語でなければ通じない環境におかれました。その中で自分が伝えたいことを、自分ができる限りの英語で伝えるということは簡単ではありませんでした。ですがだんだんカナダの生活に慣れていくにつれて、ついた時よりはまともに話せるように慣れてきたように感じました。三週間で急に英語力が向上したとは思いませんが、話を聞いて、黙り込んでしまわずに、上手な会話ではありませんが前よりははやく返せるようになったと思っています。

そしてカナダではかけがえのない友達ができました。わからないところは助け合い、不安を軽くしてくれた同じクラスで授業を受けていた日本人の友達、着いて間もないころに遊びに誘ってくれたり家に招待してくれたりお世話になった中国人の研究生達、そして一緒に留学し多くのアクティビティをともにした北海学園大学の学生たちです。カナダに行って一番うれしかったのは大好きな友達ができたことです。日本に帰ってきてもう一か月近くたちますが、彼らとはいまでも連絡を取り合い、いつか将来また会おうといっています。彼らは今カナダで英語の勉強を頑張っているのだと思うと、私も頑張ろうという気持ちになります。

授業を受けていて、日本人は文法やライティングは得意だが話すことは苦手であるということを感じました。一方で、中国人や他の国の人は、流暢に話すことはできるが読み書きが苦手であると感じました。実際文法やライティングはとても重要でしたが、いざというときに話せないのはとても苦労したので、先生方が言うように、音読や話すことはとても大切だということを強く感じたので、それらを重点的に勉強していこうと思いました。これからこの演習に参加する人へのアドバイスをするなら、自分から積極的に話しかけたり友達を作って異文化同士の交流をしたりすると、よりよい経験ができると思います。カナダで最高の思い出が出来たので、ぜひ多くの方に参加してほしいと思います。

クラスメートと一緒に

Why Brock?

Interview with Norma MacSween, Director of ESL Services

Norma MacSween, the Director of ESL Services, loves meeting students from around the world who have come to Brock University. She explains that there are three 14-week intensive programs per year, with between 300 and 500 students from over 15 different countries attending each term. In addition, there are special programs for groups, of which the Hokkai-Gakuen Faculty of Humanities' three-week program is one example.

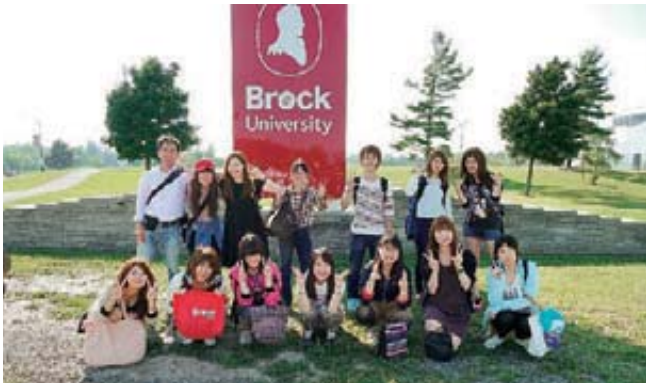
Norma MacSween
Director,
ESL Services

Students are first given a placement test that places them in one of six levels, from Preparatory, or beginner level, to Level 5, or advanced. Students who successfully complete Level 5 are eligible to enter Brock University as a regular undergraduate student. Students take five classes a day––Reading, Writing, Listening, Speaking, and Grammar––with five different teachers. Dr. MacSween supervises over 40 full-time and part-time instructors, as well as five academic coordinators who oversee assessment, quality of teaching, and activities. In addition, student volunteers serve as cultural assistants when they take the students on activities.

The program offers many activities outside classes such as day trips to locations such as Niagara Falls, the historic site of Fort George, and Toronto. There are also fun local activities such as bowling or seeing a local hockey game. Norma MacSween says these provide great opportunities for students to communicate with each other in English and also to learn more about Canadian culture.

ブロック大学 ESL Services 担当者グループ

Dr. MacSween notes that the most important way for students to experience Canadian culture is through their host family. Each student is carefully matched up with a homestay family to make sure there is a good fit. Many of the families who have hosted students from Hokkai-Gakuen have requested to host a student from Hokkai-Gakuen again. Norma MacSween hopes that students will keep an open mind, talk to as many people as possible, and enjoy as many activities as they can!



ブロック大学のキャンパス

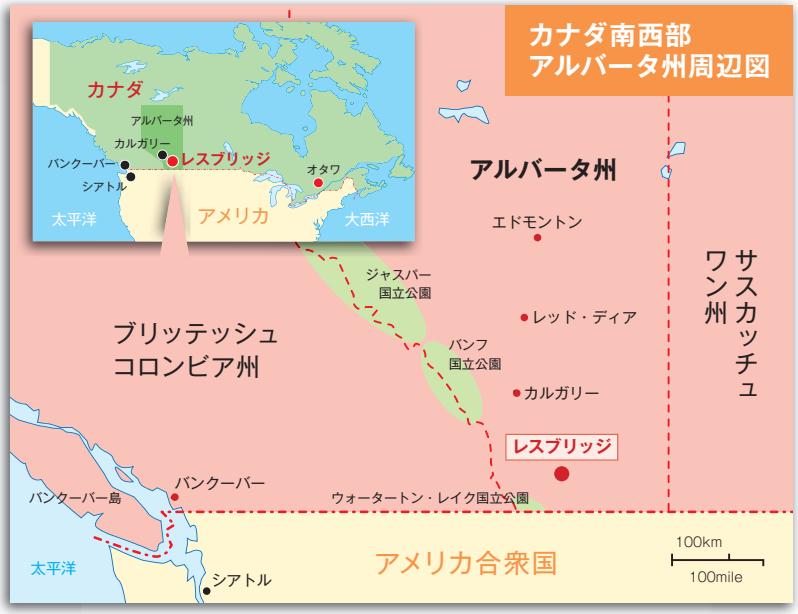
Photo Gallery

Brock

レスブリッジ大学及び Lethbridge 市の紹介

Lethbridge市

カナダの西部のアルバータ州に位置するレスブリッジ市（City of Lethbridge）は、州内でカルガリー、エドモントン、レッドディアに次ぐ４番目の人口（現在 93,004 人）を有する都市です。カナディアンロッキーの近くに位置するため、夏は涼しく（平均26℃）、冬は厳しくなく（平均 -2℃）、２時間南下すると、ロッキー山脈沿いのウォータートン・レイク国立公園に入り、1 時間ほどでアメリカに行くことができます。



レスブリッジ市は南アルバータの商業、金融、交通、そして工業の中心で、19 世紀後半からは炭鉱を中心に、20 世紀初頭からは農業を中心に発展してきました。労働人口の半数は衛生、教育、小売、宿泊飲食産業などに携わっています。第二次世界大戦中、ブリティッシュコロンビア州から強制収容された日系人がレスブリッジの郊外の農村地帯に住んでいたという歴史を持ち、日系人の比率が比較的高いと言えます。2011 年の国勢調査によれば日本人人口は 1,575人（そのなか日本語を母語として話す人口は 320人）。現在、青森県十和田市と沖縄県南風原町と友好姉妹都市を結んでいます。また日加友好日本庭園（Nikka Yuko Japanese Garden）が市の南部にあります。

レスブリッジ大学

レスブリッジ大学とは

レスブリッジ大学は、1967 年州立大学として創立された南アルバータにおける唯一の総合大学です。南アルバータの３つのカレッジのうち２つが市内にキャンパスを構え、人文・社会学部、芸術学部、健康学部、理学部、経営学部、看護学部、演劇学部、音楽学部の八つの学部と大学院で学士・修士・博士課程の教育が行なわれ、150 以上の学部課程のプログラムと大学院課程のプログラムを有します。在学生は 8,400 人（500 人は世界87 カ国からの留学生）で、2014 年マクリーン（カナダの時事雑誌）の大学の評価と、2013 年、RESEARCH Infosource（研究大学を評価するサイト）において、いずれもカナダ国内の大学３位にランクされています。教育は少人数クラスと小コミュニティーのなかで行なわれるのが特徴で、英語を母国語としない学生のためのプログラムも毎年、春、夏、秋学期に提供しています。

レスブリッジ大学海外研修事業の概要と EAP 授業

レスブリジ大学と本学は 1986年から提携を結んで学生交換事業を行ない、現在まで隔年ごとに学生（2010年まで統計トータル 336 名、ホストファミリー 153 家族）を相互に派遣してきました。世界的なグローバル化が進展するなか、この学生交換事業は「語学研修」と「交流体験」を通して英語の養成と国際性の涵養が目的とされ、多くの実績と豊かな経験を蓄積してきました。

2014 年度から人文学部は、上記の事業にさらに「海外研修事業」を加え、学生が「英米文化特別演習」として、９月上旬から３週間、また国際文化特別演習として３ヶ月間、レスブリッジ大学が提供する EAP（English for Academic Purposes）のプログラムに参加できるように決定しました。EAP とは、英語を母国語としない学生のためのプログラムで、大学で学ぶために必要な英語を習得する集中講座で、ライティング、リーディング、コミュニケーション、文法を専門講師から学び、初級から上級までのクラスレベルがあります。

研修期間中、学生たちは、フランス系カナダ人や、南米諸国、中東、アジア各国からの留学生を中心とする多様な文化背景を持つ人々と授業を受けることになります。また、ホームステイや世界各国からの留学との交流を通して、あるいは日加文化活動の参加と国立公園への探訪などの体験を通してカナダ文化に触れ、多文化主義をも体験することができます。

【授業内容例】

◉受講生はプレイスメントテストにより初級から上級までの３つのレベルに分けられ、それぞれのレベルで筆記、読解、コミュニケーション、文法の四つコースを３週間にわたって受講します。

◉ 2014 年度からは「英米文化特別演習」を半期２単位の授業科目として位置付け、単位認定については、研修終了後にレスブリッジ大学より各学生の成績評価が送られ、委員や引率教員の評価に基づき、学部教授会にて認定しています。

レスブリッジ大学のキャンパスで

①②③レスブリッジ大学の教室で　④修了式で

レスブリッジ大学のアクティビティ【日本庭園やウォータートン国立公園等】

より流暢かつ生きた英語力を身につけ、多様な価値観と国際性を涵養するためには、教室だけでは不十分で、さらにさまざまなアクティビティを通して、豊富な体験することが必要とされます。

ⓐ日本庭園　ⓑ日本文化イベントのお茶会　ⓒⓓウォータートン旅行

①例えば、2014 年度の参加学生は、アクティビティには日本語学習者の同世代のパートナーと行動をし、土曜と日曜は様々なところに共にして訪れ、日本庭園を訪れ、英語環境のなかの日本文化のイベントのお茶会に参加したり、和食のレストランに行ったりして感動した体験も報告されています。あるいは、金曜日は授業が早く終わるので、放課後にバーに行き、お酒を飲みながら話し、カナダ人のほぼ全員が踊れるらしいラインダンスを教えてもらったり、普段の授業の日もパートナーとお昼を一緒に食べたり、学内であったら話したり、よい友達になれて、帰国するとき離れたくなくてとても寂しかったという話もありました。戦前から日本と特別な関係があるレスブリッジ市ならではの体験ができるそうです。

②また、Waterton National Park（ウォータートン国立公園）を散策した学生は、同じプログラムに参加した韓国からの留学生と一緒に行動し、英語を通してカナダでの異文化を体験し、短いハイキングができて川の近くまで迫り、壮大な湖と雄大な自然に感動して、撮った風景はどれもこれも絵になるような写真で、しかもその近くの店でのお土産を選んだのも楽しかったそうです。

③参加者全員は、レスブリッジ市によって主催された市ホールでの国際留学生のための「グローバル・ナイト・パーティ」に参加しました。ゲーム、会話、ダンスで（食事込みで２$ のみ）、楽しんだとのことです。

ESSAY
Lethbridge
参加者エッセー

I had such a great time in Lethbridge!

及川 小夜
OIKAWA Sayo
２部英米文化学科１年

私は大学入学当初から、このプログラムに参加することを目標に日々英語の勉強に励んできました。留学を経験することで、英語力やコミュニケーション能力を身に着けることが出来ると考えたからです。

初めての海外生活は驚きと発見で溢れていて、大変刺激的でした。ホストファミリーは４人家族で、韓国からの留学生と共に生活していました。自宅の大きな庭で BBQ をしたり、公園やホースレースなど色々な場所に連れて行ってもらいました。思うように自分の言いたい事を英語で伝えられず、悔しい思いをした場面もありましたが、ホストマザーやファザーはいつも親身に私の話を聞いたり、英語を教えたりしてくれました。大学では Intermediate class で授業を受講しました。クラスメイトは主にアジアからの留学生で、英語を勉強する者同士すぐに打ち解けました。もちろん授業は全て英語で行われるので、先生の話を聞き取るのは簡単ではありませんが、その分やりがいはあるし調度いい緊張感の中で授業を受けることが出来ました。そしてレスブリッジ研修ならではの、ピアパートナー制度は私にとって大変思い出深いものとなりました。私のパートナーは日本語の勉強をしている 19 歳の女の子で、会ってすぐに仲良くなりました。一緒にランチをしたり、日本庭園やダウンタウンなどに行きました。彼女のおかげで、国境を越えた数多くの友達ができ毎日の大学生活を楽しめました。

３週間、積極的に交流を図ることで自分に自信が持てるようになったし、自分の夢である日本語教師の仕事に就きたいという気持ちも強くなりました。留学は自分を変える良いきっかけにもなるし、新たな目標を見出すことが出来る最高の機会だと思います。異国の地に飛び込むのは大変勇気のいることですが、行く価値は絶対にあると思います。

ピアパートナーと学生で

ESSAY
Lethbridge
参加者エッセー

初めての異文化生活

松田 颯斗
MATSDA Hayato
1部英米文化学科2年

今回、私はカナダ・レスブリッジ大学へ三週間の語学研修を行った。その動機とういのも単純なもので自分へのチャレンジをしたかったということである。すなわち、どれほど自分の英語の力がついているか、どの程度外国への適応能力があるかを確かめるために参加した。実際にレスブリッジに到着し、そこで生活をしていると様々な発見や驚きがあった。まず大学の授業について述べると、そこでは教授による一方的な授業ではなく、教えたことに対して学生に応用を求めたり、意見を交わすような場を設けていたことである。またこのことに関しても他国の学生は積極的に自分の意見を述べていただけではなく、私と同じ程の年齢であるにも関わらず非常に流暢な英語を使っていた。これらをなかなかできずにいた私は羨望を抱いたと同時に自分の英語の力不足を痛感した。そして何よりそれを感じさせたのはある学生の英語への自発的な態度である。その学生は確かにあまり英語で何か自分の答えを示すのが得意ではなく、あまり単語も知らなかった。しかし彼はそれでも臆することなく自ら積極的に英語で答え、そこから得たものをかみしめ、より良い方向へと変えていった。私は自分とは全く異なる国の学生と彼のような存在と共に授業を受けることが出来て非常に良い経験が出来た。

そして二つ目に驚いたことはカナダの人々についてである。私が店で買い物をする際にカナダの店員は挨拶をするだけではなくこちらに話しかけてくれたのだ。彼らはお客さんに対してとてもフレンドリーに接して、ジョークを混ぜていたりもした。そのため、どこか堅苦しい雰囲気を持つ日本で育った私はこちらのように自由な雰囲気を持つカナダでの生活はとても刺激的なものであった。

私は留学というもので自分自身が何か変わることができたと確信している。違う国の人々と関わることが出来て、その中から日本にいては経験出来ないようなことを多く学んだ。私が申し上げるのもおこがましいですが、留学は行けるのなら行ったほうが良いと思っています。人生は一度しかないためその限りある中で何を得るかで人生は決まっていくと思うからです。

ウォータートン国立公園

ESSAY
Lethbridge
参加者エッセー

レスブリッジで得てきたもの

澤田 未沙映
SAWADA Misae
1部英米文化学科2年

今回の短期留学は初めての海外だった私にとって、そこで得たものはたくさんありました。

はじめは日本語の通じない環境で上手くやっていく事ができるのか不安ばかりだったのですが、実際に行ってみると現地の人はとても優しく、着いた次の日には不安などなくなるほどでした。レスブリッジ大学で留学生対象のEAPプログラムに参加し、はじめにプレースメントテストを受けて、Intermediate, High Intermediate, Advancedと3つのクラスに分けられました。韓国や中国などから来た留学生と一緒に授業を受け、特に中国人は自ら意見を発することが多く、日本人の消極的さを目の当たりにしました。また、授業とは別に現地の生徒がconversation partnerとして一人ひとりに付き、一緒にランチをしたり放課後や休日に出かけたりもしました。私のホームステイ先には子供がいなかったので、同世代のカナダ人と話せる貴重な体験でした。パートナーの中には日本に留学していたことがあったり、大学で日本語の授業をとっている人が何人かいて、お互いに宿題を教えあったりもしました。

今回の短期留学を通して、小さいころから英会話を習っていたにも関わらず、自分の伝えたいことが相手に上手く伝わらないもどかしさを痛感しました。この経験を生かして、どのようにしたら相手に上手く意思を伝えることができるのか、勉強していきたいと思いました。さらなるスキルアップを目指し、いつかはもう一度レスブリッジに行きたいと思います。

3週間という短い期間ではありますが、その中には普段の生活では経験できない事がたくさん詰まっています。私は他の留学生だけでなく、学園生同士も仲良くなることができました。これから語学研修に参加したいと思っている方、まだ参加しようか迷っている方には是非参加してもらいたいです。

ウォータートン国立公園での昼食

ESSAY
Lethbridge
参加者エッセー

レスブリッジの語学研修を通して感じたこと・学んだこと

村上 大貴
MURAKAMI Hiroki
1 部英米文化学科 3 年

オープンキャンパスに行ったときにもらった大学のパンフレットを見て、私は初めてこの演習を知りました。英語圏の国へ行き、いろいろな国から来た留学生と一緒に勉強し、更に発言もたくさん行うということから、非常に良い勉強の機会になると感じました。また、カナダの歴史や文化を学んだこともあるので、実際に学んだことを使ってみたいと思い、今回国際文化演習に参加させていただきました。

レスブリッジでの勉強や生活は私にとって有意義な日々でした。私の入ったクラスには韓国や中国、ブラジル、メキシコ、そしてモンゴルなどから来た学生がいました。もちろん出身国が違うので、すべて英語でコミュニケーションをしなければならず大変でしたが、英語で相手と話したり、英語で相手が何を言っているのかを理解したりすることに楽しみを感じました。自分の言っていることが相手に通じるということは、自分の英語が実際に使えるものだと実感したからです。ある時には自分がある失敗をして落ち込んでいたところを英語で励まされたこともあります。クラスの人たちともなじむことができて、授業以外では Line でやり取りをしていました。

パンフレットやオリエンテーションで言われていた通り、授業では他の学生たちが積極的に発言してくるので、私も負けまいと分からないところがあれば *Excuse me.* と言って先生に聞いていました。先生が何か質問はありますかと聞いてきて学生たちが No. と言う中、私だけは何か質問しようと考えていたこともありました。

レスブリッジの研修にはピアパートナーというシステムがあり、カナダ人と交流を深める機会が設けられていました。私の場合は Line などで連絡を取り合い、ダウンタウンへ行きました。ジャパニーズ・ガーデンという日本風建物が建っている場所へ訪れたり、バーへ行って雑談をしたりしました。ホストファミリーの方々は私に親切にしてくれました。私は日用品の使い方やシャワーの時間帯、そして就寝時間はいつごろかなど、ホストファミリーの生活についてとにかく聞きました。英語圏ではおそらく以心伝心の概念が存在しないため、疑問に思ったことははっきりさせようと感じたからですね。特に大きなトラブルもなく過ごすことができたので良かったと思います。ただ、もっと家のお手伝いなどをしてホストファミリーに貢献すればよかったかなと思います。

ともあれレスブリッジで過ごした日々は私にとって忘れられない経験であり、思い出でもあります。自分の英語を使うことができたこと、英語を使って他の国の人たちとコミュニケーションをとることを学んだこと、そして実際にカナダで生活することができたことに、私は非常に嬉しく思います。もしあなたたちがカナダへ勉強しに行きたいと思うのであれば、ぜひこの演習に参加してみてはいかがでしょうか。

Why Lethbridge?

Interview with Karen Smith, Manager of Language Services

Karen Smith
Manager, Language Services

"If you want to learn about a culture, learn the language."

Karen Smith is a newcomer to the International Center for Students (ICS), but she has been working in this area for a long time. She brings a unique skill set and lot of confidence and enthusiasm to her job as manager of Language Services at ICS.

Karen loves languages and linguistics. "Linguistics is my heart, language learning is my soul," she says. A natural linguist, she picked up Chinese during her four years there doing volunteer work and doing an internship in Hong Kong. She trained in English as a Second Language and has been a language teacher. Even now, she continues to read a number of professional journals in linguistics. In fact, she is excited about recent developments in this field that she "adores".

Karen clearly has a deep respect for other cultures. While in China, she became deeply immersed in Chinese culture. She enjoyed meeting friends' families in remote villages just as much as she enjoyed the excitement of Hong Kong. This same respect can be seen when she reminisces about some former students from Mexico who were committed to preserving their indigenous Mayan heritage.

As business manager, Karen Smith loves putting together new language programs. Here at Lethbridge, she looks forward to setting up custom programs that link culture to language. She envisions language courses that focus on Alberta's unique geology and indigenous culture. In this way, during excursions to places such as Head Smashed-in Buffalo Jump, students will be able to hear and read the same vocabulary that they learned during class.

授業

Karen explains that all of the ICS staff members have a deep commitment to students, and that all ICS teachers and administrators share these same values. "I'm proud to be here at the University of Lethbridge."

終了証明書

Photo Gallery

Lethbridge

国際交流委員会から【研修までの流れ】

■研修までのながれ

4月上旬～中旬下旬
- **第１回説明会**
  （プログラム紹介＆仮申込書の説明）
- **仮申込締め切り**
- **第２回説明会**
  （本申込書《本学＆ブロック大学》の説明）

5月上旬中旬下旬
- **本申込締め切り**
- **参加者発表**
- **第１回オリエンテーション**
  （スケジュールの案内＆パスポート申請についてなど）

6月中旬下旬
- **ブロック大学およびレスブリッジ大学への申込書提出**
- **第２回オリエンテーション**
  （保険、外貨両替についてなど）

7月下旬
- **第３回オリエンテーション**
  （過年度参加学生による質疑応答、英語表現の確認など）

8月下旬
- **第４回オリエンテーション＆結団式**
  （ホストファミリー情報、最終注意事項など）

英米文化特別演習の場合

9月上旬
- **研修実施**
  （約3週間）

10月下旬
- **報告書提出**
  （研修を終えてのエッセー）

国際文化特別演習の場合

9月上旬～12月中旬
- **研修実施**
  （現地での1学期）

1月中旬
- **報告書提出**
  （研修を終えてのエッセー）

●パスポートと Homestay Tips 冊子

オリエンテーションで

飛行場で

レスブリッジ大学研修

海外研修事業の歴史

■人文学部 英米文化特別演習／国際文化演習 実施一覧表

	研修大学	研修期間	引率教員	参加学生数	委員
第１回	ブロック大学	平成12（2000）年度 ７月７日～８月13日	宝利尚一 米坂スザンヌ	１８名 （男子７名、女子11名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
第２回		平成13（2001）年度 ７月８日～８月12日	井上真蔵 岩崎まさみ	22名 （男子５名、女子17名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
第３回	ブロック大学	平成14（2002）年度 ７月７日～８月11日	桑原俊一 上野誠治	20名 （男子３名、女子17名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
―	平成15（2003）年度　SARSの流行により中止				米坂スザンヌ 岩崎まさみ 大石和久
第４回	ブロック大学	平成16（2004）年度 ９月４日～９月26日	米坂スザンヌ 岩崎まさみ	25名 （男子２名、女子23名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
第５回	ブロック大学	平成17（2005）年度 ９月４日～９月25日	栗原豪彦 米坂スザンヌ	24名 （男子４名、女子20名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第６回	ブロック大学	平成18（2006）年度 ９月３日～９月24日	中川かず子 イアン・マンビ	20名 （男子６名、女子14名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第７回	ブロック大学	平成19（2007）年度 ９月２日～９月23日	上野誠治 池内静司	22名 （男子４名、女子18名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第８回	ブロック大学	平成20（2008）年度 ９月１日～９月21日	桑原俊一 本城誠二	23名 （男子０名、女子23名）	岩崎まさみ 上野誠治
―	平成21（2009）年度　世界流行のインフルエンザにより中止				岩崎まさみ 上野誠治
第９回	ブロック大学	平成22（2010）年度 ９月５日～９月26日	岩崎まさみ ウィリアム・ケイ	27名 （男子５名、女子22名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第10回	ブロック大学	平成23（2011）年度 ９月４日～９月25日	田中洋也 ウィルマ・ルース	26名 （男子５名、女子21名）	米坂スザンヌ 寺田吉孝
第11回	ブロック大学	平成24（2012）年度 ９月３日～９月23日	岩崎まさみ ジェレミ・ブシャー	24名 （男子８名、女子16名）	米坂スザンヌ 田中綾
第12回	ブロック大学	平成25（2013）年度 ９月１日～９月22日	上杉忍 ブリックリン・ゼフ	13名 （男子３名、女子10名）	米坂スザンヌ テレングト アイトル
第13回	ブロック大学 レスブリッジ大学	平成26（2014）年度 ８月31日～９月21日	柴田崇 米坂スザンヌ	14名 （男子２名、女子12名） 12名 （男子３名、女子９名）	米坂スザンヌ 田中　洋也 テレングト アイトル

ナイアガラの滝（ブロック大学研修）

ウォータートン国立公園で（レスブリッジ大学研修）

Photo Gallery

Brock & Lethbridge

平成27年3月発行

北海学園大学　人文学部

〒062-8605　札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
TEL：011-841-1161（内線2132）
FAX：011-824-7729
北海学園大学 URL：http://hgu.jp/
北海学園大学人文学部 URL：http://human.hgu.jp/

edit：Labbott